

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立赤崎小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒808-0004
北九州市若松区西小石町8番1号

E-mail akasaki-e@kita9.ed.jp
Website http://www.kita9.ed.jp/akasaki-e/

幼児児童生徒数 男子 107名 女子 82名 合計 189名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、ESDを現代社会の課題を自らの問題として、身近なところから課題解決に向けて取り組む、持続可能な社会を創造していく学習活動と捉えた。そして、「未来につなげよう！ふるさと赤崎！」を活動テーマとして、私たちの町「赤崎」のよさを地域に伝え、次世代につなげていくことを目標とした。

具体的には、子どもの活動の場を地域に求め、地域の人・もの・ことを柱に、①環境に係わる学習活動、②エネルギーに係わる学習活動、③地域の伝統文化、文化遺産に係わる学習活動、④健康・福祉に係わる学習活動を行った。

① 環境に係わる学習活動

「4年生 総合的な学習の時間『ごみを出さない生活を目指そう!』」

北九州市環境局主催の「古紙リサイクルバスツアー」に応募し、生活の中で出された古紙がどのようにリサイクルされているのかを学習した。

学習したことを基に、新聞づくりを行った。児童は、3Rの中でもごみ自体を出さないように努力する「リデュース」が一番大切であること、紙を作るのはとても時間がかかるので、無駄遣いをしないように努力すること、ごみを減らす努力をしなければいけないことに気付き、新聞にまとめることができた。

この学習を生かし、本校の伝統である「空きかんりサイクル活動」に生かしていきたいと考えている。

② エネルギーに係わる学習活動

「6年生 総合的な学習の時間『エネルギーと環境』」

本単元は、第一部「現在の日本の発電の様子」、第二部「電気エネルギーを有効に使うために、自分たちにできること」の二部構成で学習を進めた。

また、第一部から第二部への移行をスムーズにするために、電源開発会社と連携し、節電の大切さを呼びかけてもらった。

第二部では、節電に効果がある方法を調べたり、グループで整理・分析をしたりして、節電に効果的な節電方法を考え、全校児童に発信した。

③ 地域の伝統文化、文化遺産に係わる学習活動

「3年生 総合的な学習の時間『小石ちょうちん山笠を盛り上げよう』」

学習したことや体験を通して、地域を大切にし、伝統を守りたいという思いを込めて山笠を作成した。祭り当日は自分たちで作った山笠をかつぎ、地域の方々と一緒に祭りを楽しんで盛り上げていった。単元終了後の児童の感想には、「地域の人となかよくなってよかったです。」「地域の人といっしょにお祭りをして赤崎・小石のよいところを見つけました。」という内容が多かった。この言葉には、児童が主体的に活動し、地域を愛する心が育った姿が見受けられる。

④ 健康・福祉に係わる学習活動

「4年生 総合的な学習の時間『赤崎小ふれあい大作戦』」

本単元は、地域に住む独り暮らしの高齢者の家を訪問したり、一緒に活動したりすることを通して、高齢者や高齢者を支えるボランティアの方の思いや願いの理解を深め、地域の一員として自分たちにできることを考えることをねらいとしている。交流活動の間に「高齢者疑似体験」を取り入れることで、高齢者の体の不自由さを体感し、高齢者の立場に立った関わり方について考えることができるようにした。

これらの活動を通して、児童は、高齢者と関わる楽しさや、これから自分たちにできることを考えることができた。



①の写真（児童作成新聞）



②の写真（水力発電について学



③の写真（山笠を担いで運動場を回る）



④の写真（独り暮らしの高齢者宅を訪問する）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・ 経済産業省資源エネルギー庁 「家庭の省エネ大事典」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

3～6年生において、総合的な学習の時間に位置付けている。
3年生：「小石ちょうちん山笠をもりあげよう」（地域）
「生き生きおじいちゃん、おばあちゃん」（福祉）
4年生：「リサイクルセンター赤崎」（環境）
「赤崎小ふれあい大作戦」（福祉）
「2分の1成人式」（キャリア）
5年生：「わたしたちのまちに森をつくろう」（環境）
「いのちを見つめて」（福祉）
6年生：「エネルギーと環境」（環境）、「夢・希望・未来」（キャリア）
年度末に各学年の実践と成果と課題を明らかにして、本報告書を作るようにしている。そして、次年度に引き継げるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

代々、総合的な学習の時間の指導案や実践事例、ワークシート等をファイルにまとめている。そして、実践を行っていく中で、改善したらよいところなどを加筆するように伝え、先生方に実践をしてもらっている。
ゆえん、年度当初に、そのファイルを見ることで、その学年がどんな学習を行っているか教師がイメージをもつことができ、計画が立てやすくなっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末にユネスコ本部や北九州市教育委員会に送る報告書作成のため、各学年、学習内容と成果と課題をまとめている。それを研究主任が一つにまとめ、職員会議を開いて共通理解を図っている。
成果：体験活動を適切に位置付けることで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。
課題：環境学習の成果を実感することが難しい。児童の意欲を持続させるために、家庭との協力が不可欠である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校の実践を「全国小中学校環境教育研究大会」で誌上提案を行った。すると、本校の実践を詳しく聞きたいと、鹿児島県の大崎町立大丸小学校より依頼があり、本校の教育課程や校内掲示物を見に来られた。

私自身、本校で3～6学年のすべての教育課程を把握できていなかったので、来校を機に各学年の実践を簡単にまとめなおした。私自身がまとめることで、実践する上で、その単元の難しいところ等を把握することができ、実践をする際にアドバイスをすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

3年生は小石ちょうちん山笠保存会の方、4年生は、福祉協力員の方、5年生は環境局の方、6年生は電源開発会社の方をゲストティーチャーに招き、学習活動を行っている。ゲストティーチャーとの関わりを単元の中に適切に位置付けることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができるようになった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

6月に「日米教員交流プログラム」で本校にアメリカから12名の先生が来校された。当日は、本校6年生の環境学習の見学された後、研究主任から、本校の環境教育のカリキュラムについて説明した。アメリカの先生は、本校にあるあき缶集積場や本校北側にある多数の太陽光パネルに興味を示していた。本校は、改めて環境教育を行うのに絶好の環境が整っていると感じさせられた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動を行うことによって、教員の意識が変わったと考える。ユネスコスクールの活動を行う前は、従来通りのカリキュラムを何も考えずに行っていたが、今は、年度末に本年度の成果と課題を出し合い、カリキュラムを加筆修正して、次年度につなぐようにしている。そうすることで、より子どもの実態にあった学習になってきている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本年度のカリキュラムを基に、30年度も実践をしていきたいと考えている。本校は、環境教育の実践をユネスコスクール本部に提出し、ユネスコスクール推進指定校に指定された。昨年度より、4年生が福祉を中心としたカリキュラムを作成し実践している。2年間実践を行い、それなりの成果が表れてきたので、環境の分野にとどまらず、福祉の分野にも力を入れていきたい。また、4年生が福祉分野の学習を行うことにしたので、6年生の福祉分野の学習を止め、キャリア分野の学習を行うようにした。このカリキュラムは、まだまだ改善の余地がたくさんあるので、来年度は、6年生の福祉分野のカリキュラム作成に力を入れていきたい。